

乗って、楽しむ、おでかけガイド


西Navi

nishinavi.jp



香川県・小豆島
宝生院のシンパク

©Takashi Karaki

 JRのきっぷはネットでカンタン予約

北陸新幹線などのきっぷがネットでおトク!

詳しくは

列車時刻、運賃・料金、キャンペーン情報など

お電話でのお問い合わせはJR西日本お客様センター(6:00~23:00 年中無休)
☎0570-00-2486(固定電話からは市内通話料でご利用可能) ☎078-382-8686(有料)

香川県・小豆島 宝生院のシンパク



山活動によってできた寒霞渓、天使の散歩道として知られるエンジェルロード、巨石・大天狗岩など、瀬戸内の島の中でも五感を刺激するパワースポットが多い小豆島。中でも近年注目を集めているのが、樹齢1600年以上、応神天皇のお手植えと伝わる宝生院の巨木・シンパク。国指定特別天然記念物で、樹高約20m、根元の周囲は約16.6mもあり、幹が三方に分かれ、旺盛なたたずまい。水資源が少ない小豆島でも水脈に恵まれた場所にあるため巨木に育ったと考えられている。幹には鳥や象の顔のように見える部分もあり、数々の歴史を見てきたこの木に生き物たちがまるで宿っているかのようだ。



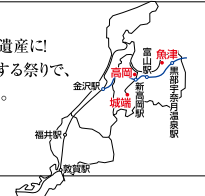
おかげさまで
JRは30周年

JR西日本

富山の曳山行事が おもしろい!

2016年、「山・鉦・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に!
山・鉦・屋台と呼ばれる山車が招福を願って巡行する祭り、登録された全国33の祭りのうち3つが富山にある。登録されてから初めて開催される祭りへ、いざ!

取材・文/宮下亜紀 写真/中乃波木



天 正16年(1588)、豊臣秀吉 所有の御所車を加賀藩藩祖前田利家が拝領。2代利長が高岡城の築城にあたり、この御所車を祭器として、高岡関野神社の祭礼日に神輿と共に曳き廻すよう命じたのが、高岡御車山祭の始まり。「山車が大変よくなったので、さらに釜子を授けよう」という利長直筆の文献が残されている。「祭りはいつ頃、どんな理由で始まったかが曖昧な場合が多いですが、高

岡御車山祭は始まりがはっきりしている、全国でもまれな祭りといわれています。利長は慶長14年(1609)に高岡城に入城し、高岡を開町するも、慶長19年(1614)に他界。結果的に城は5年ほどで役目を終え、3代利常によって高岡は城下町から商工業の町に転換。職人、商人が集まり、加賀藩の経済を支える中心

地として栄え、町民によって祭りが受け継がれてきたのです」と、高岡御車山会館館長の林昌男さん。

な蝶や釣鐘といったつべんを飾る鉦留も見事。町同士が競い合い、装飾を重ね、どんどんと絢爛豪華になっていったという。5月1日の正午、片原町交差点に7基が勢ぞろいする様は圧巻。津幡屋と四兵衛頭影碑前では、昔ながらの風情ある細い通りで御車山が音を立てて180°転回。観客も一体となって盛り上がる、館長おすすめの見所だ。路地まで追いかけ、その迫力を感じたい。

名工の技の結晶、絢爛豪華な動く工芸品!

金工や漆工がブライドを懸けて造り上げた御車山は、まさに動く工芸品。華やかな漆塗りの車輪が御所車を連想させ、花傘の下に布袋様や恵比須様など、ご神体が鎮座する。金色の大き

獅 子舞を先頭に、鉦・傘・鉦、神輿、組になった曳山6基+庵屋台6基などが巡行する、城端曳山祭。漆塗りの大きな御神像が鎮座する曳山は、地元の名工による彫りや塗りの美しさに見れば見るほど魅了される。さらに、この祭りならではの、実在の料亭を模した下部にお囃子が入り、庵唄を披露する。夜になると明かりがとり、

庵唄が流れると、お茶屋の座敷にトリップしたように、心がグッと引き込まれる。城端は絹織物の産地として栄え、享保年間、不況に陥った際、商人が財を投じ、招福・除災を祈願して祭りが始まったとされている。「行商先である京の都から雅な文化が、江戸からは唄が伝わり、融合して

独自の祭りが生まれました。都から持ち帰った流行りのものを女性たちに見せる、粋な男の遊び心だったと思えます」と、城端曳山会館館長の山下茂樹さん。祇園の一家茶屋を再現した庵屋台は、欄間に東海道五十三次の名勝が彫り込まれ、違い棚や引き戸は開け閉めできるほど、目を見張

る精巧なつくり。吉原の料亭を模した庵屋台は職人が実際に見に行っ て設計したというこだわりようだ。今はなき茶屋がこうしてここに形を残していることにも感嘆を覚える。巡行は午前9時から午後10時頃まで、休憩を挟むものの、1日ばかり。狭い道を通るときは屋根を折り上げるなど、見せ場も多く、リピーターになるファンも多い。昼と夜で変わる雰囲気をごらんでも体感したい。



町奉行に挨拶した名残から奉行所があった片原町交差点に御車山がそろう。市長に挨拶。巡行順は100年以上変わらないが、山車の後ろを飾る送り花が先頭の山車にはないため音は順番が逆だったのではという説も。



巡行前夜の宵祭では、その年の「山宿」にあたる家で御神像が公開される。曳山の曳き廻しがあるのは祭り当日。傘鉦・神輿行列の巡行から祭りは始まる。辻回しでは曳山の車輪がぎゅぎゅと音を立て、山、「ぎゅぎゅ」とも呼ばれる。ご祝儀を出して所望した家、約50軒を庵屋台が訪れ、庵唄を披露。家の中にいながらお茶屋気分が味わえる趣向だ。



山宿



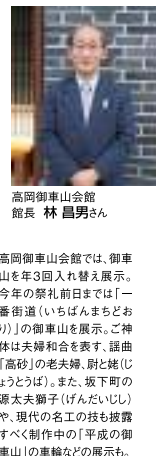
傘鉦行列

5/1(月) 高岡御車山祭

☎0766-20-1301(高岡市観光交流課) ◎市内曳き廻し11:00~18:00、4/30(日)宵祭は18:00~21:00

5/5(金・祝) 城端曳山祭

☎0763-62-1201(南砺市観光協会) ◎巡行は9:00~22:00頃、5/4(木・祝)の宵祭は17:00~22:00頃



高岡御車山会館 館長 林昌男さん

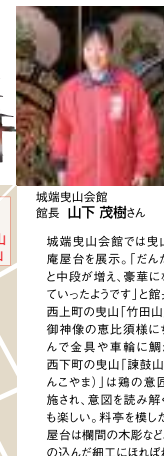
高岡御車山会館では、御車山を年3回入れ替え展示。今年の祭礼前日までは「一番街道(いちばんまぢどおり)」の御車山を展示。ご神体は夫婦和合を表す。謡曲「高砂」の老夫婦、尉と姥(じょうとば)。また、坂下町の源太夫獅子(げんだいし)や、現代の名工の技も披露すべく制作中の「平成の御車山」の車輪などの展示も。



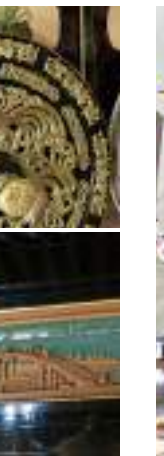
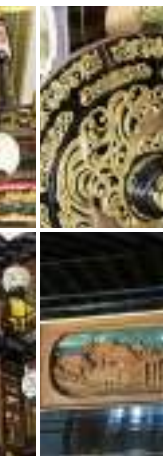
高岡御車山会館
〒930-0841 高岡市守山町47-1 ☎0766-30-2497
◎9:00~17:00(入館は16:30まで)
火曜(祝日の場合翌平日)、年末年始休
◎有料ゾーン観覧料=高校生以上300円
◎新高岡駅から城端線、高岡駅下車、徒歩約12分



城端曳山会館
〒923-0293 南砺市城端579-3 ☎0763-62-2165
◎9:00~17:00
年末年始休
◎入館料=大人510円
◎城端駅下車、徒歩約12分



城端曳山会館 館長 山下茂樹さん



城端曳山会館では曳山と庵屋台を展示。「だんだんと中段が増え、豪華になっていったようです」と館長。西上町の曳山「竹田山」は御神像の恵比須様になんで金具や車輪に銅が、西下町の曳山「諺鼓山(かんごやま)」は鉦の意匠が施され、意匠を読み解くのも楽しい。料亭を模した庵屋台は欄間の木彫など、手の込んだ細工にほれられ。